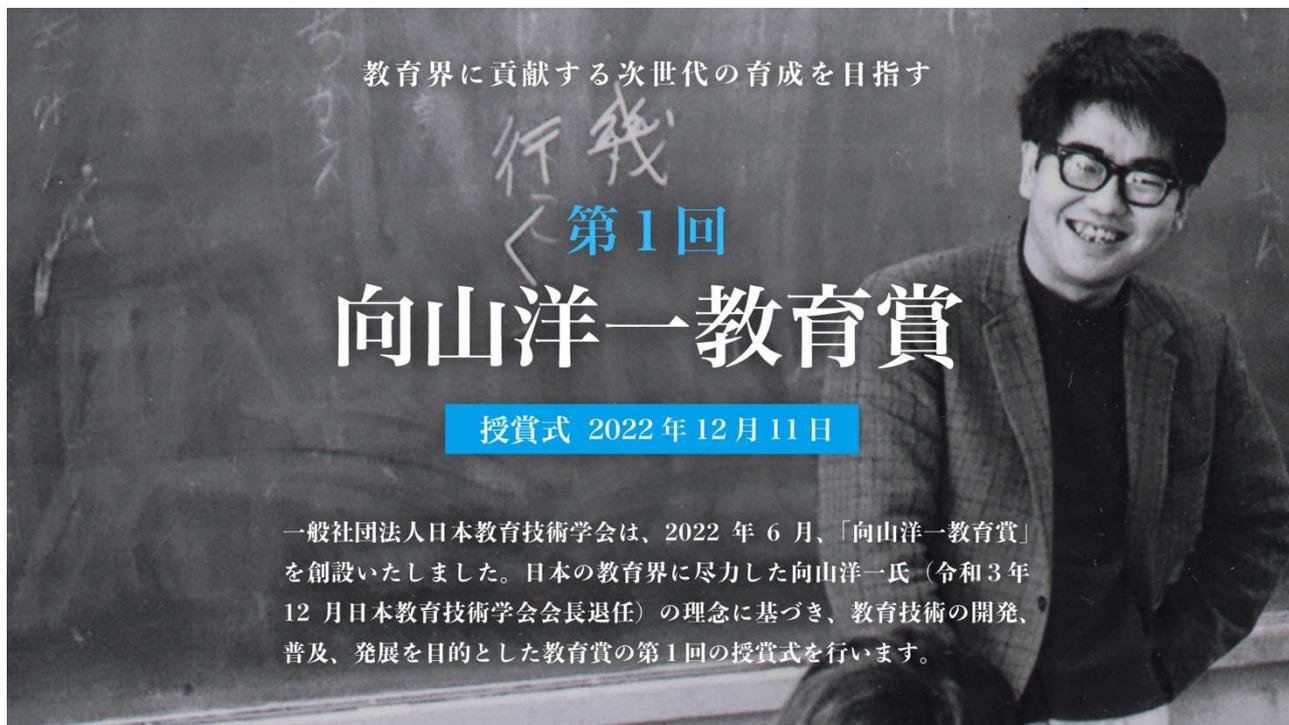


報道各位
教育関係者各位

教育界に貢献する次世代の育成を目指す
「第1回（2022年度）向山洋一教育賞」各賞の発表と授賞式の取材のご案内
～12月11日（日）の日本教育技術学会静岡大会で発表～



12月11日（日）静岡県静岡市にある県立男女共同参画センターにて、日本教育技術学会（所在地：東京都品川区、会長：谷和樹）静岡大会が開催され、第1回向山洋一教育賞の発表と授賞式が開催される。向山洋一教育賞は、教育界に貢献する次世代の育成を目指し、本年度新たに創設された教育賞で、学校現場に役立つ教育実践・研究を現場教師の目線で選考するという点で従来の教育賞とは一線を画す。その1回目となる本年度は全国津々浦々から、421編の教育実践研究論文が寄せられ、一次選考を通過した22編の中から5編が選ばれた。12月11日には、表彰式と論文発表が行われる。各賞の受賞者は次のとおり（敬称略）。

・教育技術賞 白杉 亮（東京都）

自己調整学習理論に基づく授業技術の分類と考察 授業技術の理論的体系化の試み

・最先端実践賞 多々野 智子（福岡県）

学校の活性化を図る若年教員育成 教育技術の活用を通して

・学級経営・児童生徒指導賞 松崎 力（栃木県）

学力向上を目指し全校体制で取り組んだ4年間の研究

2017年（研究前）と2021年（研究後）の結果比較から8の手立を検証する

・向山洋一実践・研究賞 板倉 弘幸（東京都）

漢字教育における向山実践群の意義に関する検討

「覚える学習」から「考える学習」への転換期に求められる向山実践群の特長

・特別賞 井上 好文（兵庫県）

向山洋一氏が残した約30万ページの教育資料を分類・整理し、向山実践を研究・継承するためのデジタルアーカイブを構築する

(参考資料1)

第1回(2022年度)向山洋一教育賞 授賞式のご案内

一般社団法人日本教育技術学会(所在地:東京都品川区、会長:谷和樹)は、2022年6月に「向山洋一教育賞」を創設し、この度、全国から241編の論文が寄せられ、最終選考の結果、各賞が決定いたしました。12月11日(日)に開催の日本教育技術学会静岡大会にて、各賞の発表と授賞式を行います。

本賞は、長きにわたり日本の教育界に尽力した向山洋一氏(令和3年12月日本教育技術学会会長退任)の理念に基づき、教育技術の開発、普及、発展を目的として設立したものです。2022年度は、6月17日から8月31日まで、教育技術に関する応募論文や推薦書を募集しました。これまでの教育賞には、教科書会社主催のもの、新聞社主催のもの、企業が主催しているものなど、さまざまなものがありました。しかし、この「向山洋一教育賞」は、実際の教育現場に役立つ実践及び研究を、現場の教員目線で選考するという点で、従来の教育賞とは一線を画します。

初年度である今年は、全国から241編の論文が寄せられ、一次選考を通過した論文が22編まで絞られ、最終選考の結果、各賞が決定いたしました。授賞式は下記の通り執り行います。

1. 日時 2022年12月11日(日)10時30分~11時30分 10時開場
2. 会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」大ホール
3. 住所 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 静岡駅より徒歩9分

第1回(2022年度)向山洋一教育賞の応募内容と結果

1. 募集期間 2022年3月1日から2022年8月31日まで
2. 応募資格 日本教育技術学会の個人会員、団体会員、賛助会員
3. 応募論文数 241編
4. 結果発表 12月11日(日)の日本教育技術学会静岡大会にて、各賞の表彰式を行う。

・教育技術賞 白杉 亮(東京都)

自己調整学習理論に基づく授業技術の分類と考察 授業技術の理論的体系化の試み

・最先端実践賞 多々野 智子(福岡県)

学校の活性化を図る若年教員育成 教育技術の活用を通して

・学級経営・児童生徒指導賞 松崎 力(栃木県)

学力向上を目指し全校体制で取り組んだ4年間の研究

2017年(研究前)と2021年(研究後)の結果比較から8の手立を検証する

・向山洋一実践・研究賞 板倉 弘幸(東京都)

漢字教育における向山実践群の意義に関する検討

「覚える学習」から「考える学習」への転換期に求められる向山実践群の特長

・特別賞 井上 好文(兵庫県)

向山洋一氏が残した約30万ページの教育資料を分類・整理し、向山実践を研究・継承するためのデジタルアーカイブを構築する

5. 向山洋一教育賞及び取材等に関するお問い合わせ先

一般社団法人日本教育技術学会

向山洋一教育賞事務局(担当:美崎眞弓) info@mukoyama-award.com

〒142-0064 東京都品川区旗の台2-4-12 TEL:03-5702-5835 FAX:03-5702-2384

向山洋一教育賞 HP

<https://mukoyama-award.com>



(参考資料 2)

第 1 回 (2022 年度) 向山洋一教育賞の概要

1. 対象：日本教育技術学会の個人会員、団体会員、賛助会員
2. 趣旨：教育技術の開発、普及、発展を願い創設された「向山洋一教育賞」では、応募論文による以下 4 つの賞を設ける。
 - I. 教育技術賞
 - II. 最先端実践賞
 - III. 学級経営・児童生徒指導賞
 - IV. 向山洋一実践・研究賞また、推薦書による特別賞を設ける。
3. 選考委員：
選考委員長 明石要一（千葉敬愛短期大学学長）
選考委員 谷 和樹（玉川大学教職大学院教授）
小森栄治（日本理科教育支援センター代表）
堀田龍也（東北大学大学院情報科学研究科教授および
東京学芸大学大学院教育学研究科教授）
向山行雄（敬愛大学教育学部教授および教育学部長）
Anyango（ニャティティ奏者 日本ケニア文化親善大使）
4. 副賞：
受賞者の表彰は日本教育技術学会において行い、以下の通り副賞を授与する。
 - I. 教育技術賞 20 万円
 - II. 最先端実践賞 10 万円
 - III. 学級経営・児童生徒指導賞 10 万円
 - IV. 向山洋一実践・研究賞 10 万円特別賞 10 万円

一般社団法人日本教育技術学会とは

日本教育技術学会は、教育技術の発掘・創造を期し会員相互の研究上の連絡・協力を促進することを目的とし、学校現場の教職員を中心に 1987 年に創立された。主な事業は以下のとおり。

1. 会員の研究の促進・援助
2. 学会誌（『教育技術研究』）その他の刊行物の刊行
3. 年次研究大会（日本教育技術学会大会）および研究集会の開催
4. 内外における関係研究団体との連絡提携

日本教育技術学会公式 HP :
<https://www.js-eduskill.or.jp/>



(参考資料 3)

向山洋一プロフィール

1943年、東京生まれ。元日本教育技術学会会長。

東京学芸大学卒業。長年にわたり東京都公立小学校教諭を務め、全国の優れた教育技術・方法を集めて共有財産化を図る「教育技術の法則化運動」や、教育コンテンツサイト「TOSSランド」を主宰。「教育技術の法則化運動」は、現在TOSS (Teachers' Organization of Skill Sharing) として、サークル数700、会員数約1万名の日本最大規模の教育団体となった。NHK「クイズ面白ゼミナール」教科書問題作成員、千葉大学非常勤講師、上海師範大学客員教授を歴任。『教室ツウウェイ』『向山型算数教え方教室』など、編集長として数多くの教育雑誌の編纂も手がけた。「学級崩壊」「モンスターペアレント」「黄金の三日間」などは、向山の造語である。『斎藤喜博を追って』（昌平社）、『新版 授業の腕を上げる法則』（学芸みらい社）、『いじめの構造を破壊せよ』（明治図書）、『学校の失敗』（扶桑社）ほか、1,000冊を超える単著・共著・編著書がある。



【教育技術の4つの理念】

向山洋一氏は、1984年「教育技術の法則化運動」創設にあたり、次の4つの理念を掲げた。

- ①教育技術はさまざまである。できるだけ多くの方法を取りあげる。（多様性の原理）
- ②完成された教育技術は存在しない。常に検討・修正の対象とされる。（連続性の原理）
- ③主張は教材・発問・指示・留意点・結果を明示した記録を根拠とする。（実証性の原理）
- ④多くの技術から、自分の学級に適した方法を選択するのは教師自身である。（主体性の原理）

選考委員長 明石要一（千葉敬愛短期大学学長）

日本教育技術学会は、教育界に貢献する次世代の育成を目指し、本年度新たに向山洋一教育賞を創設しました。

初年度である第1回向山洋一教育賞には、全国各地から、241編もの素晴らしい実践研究論文が集まりました。今回、最優秀賞である教育技術賞には、東京の白杉亮氏の実践研究論文が選考されました。向山洋一氏が長年に渡り提唱されてきた様々な教育技術を、最新の学習理論に基づいて分類・考察することにより、今後の授業



技術研究の基盤となる体系的で新しい観点を示した点が高く評価されました。引き続き、来年には、第2回向山洋一教育賞の応募論文の募集が始まります。教育現場の叡知を集め、検証し、広めるために一人でも多くの現場の先生方からのご応募をお待ちしております。